

「ふう〜最高♡
ほんとイイま●こしてるぜ
アルティナちゃん♡」

「んぐ…つぎ!!」

「よく今までハメずに
これたな教官さんよ
オレなら会ったその日に
即ハメだわ(笑)」

「いつ…うぐ!
き…きよう…かん…」

「よおーし
またイかしてやるぞ
教官様にじっくり見てもらえよ」



「ふっ…ふっ…ふっ…ふっ!!」

「ふっ…ふっ…ふっ…ふっ!!」

「へっ…ま●ごビクビクしてきたな(笑)」

「き…ぎよ…う…かん…
た…すげ…ひうん!!」

「くっ…おおお…
この締めり堪らねえ…っ♡」

「ひっ♡いッア♡あッああっ♡」

「オラっおら! イけオラ!
オレ様のち●ぽでアへりやがれっ!!」



びん♡

びん♡

びん♡

びん♡

びん♡

「んああアアあああつっ♡♡♡」

「くっ…お…オレも…ッ」

「孕めっ孕めアルティナ！
オレ様のガキ孕めオラあああつ!!」

「ひっん♡ん♡ん♡ん♡」

「ふっはあ…種付け最高…♡」

「教官さんどうよ
アルティナちゃんのアへ顔何点くらいよ?」

「い…ああ…あ…♡」

「立派な肉便器になれるよう
オレ様が教官になって

しっかり指導してやるよ♡」



「数時間後」

「種付けっ!」

アルティナま●こ種付け!
オレ様の種付けでイけオラあああッ!!

「ひゃあひああアアあぁっ♡♡♡」

「ぐ…おお…う」

孕め…孕…め…え
オレ様のガキ孕みやが…れ…っ

「あ…いお…あ♡」

「あ…アア…い♡」

「し…搾りくら…れ…ッ」

無理矢理トバすの最…高…♡」

「お…オあ…あ♡」

「はあ…はあ…♡」

「いいおねだりするじゃねえか
ち●ほ溶けるかと思っただぜ♡」

「あ…♡
あ…♡」

「少し休憩の後に指導再開といくか
次は子宮口をしっかりと扱いてやる♡」









